

カ	ラ	■開山忌・第二十七回育英会辞令交付式、節分追儺法会、身代わり不動明王大祭	1
法	話	●住職法話 平成二十六年「孝順心と行持報恩」	12
連	載	●『普勸坐禅儀』に学ぶ 其の八	20
	●	曹洞宗教団を大きく発展させた禅師	29
法	話	●仏の価値観 平成二十五年「秋彼岸法会」	34
	インタビュー	■「共に歩む」総代さん紹介③ 國廣 敏郎さん	48
	アーカイブス	■茶禅一味 『成寿』第三十卷（平成十一年発刊）	52
カ	ラ	■やすらぎの塔開眼式・合同合祀慰霊祭、伊勢旅行、善光寺講座「論語からのお話」	67
	●	善光寺講座「論語からのお話」 ～参加者からのお便り～	73
	●	善光寺霊園ニュース	80
	●	ニュースアラカルト	96
	お知らせ	●参禅会、写経会、華道教室、書道教室のお知らせ、留学僧募集のお知らせ	106
	●	普門寺アイゼンブッフ禅センターからのお便り	114
育英会寄付	120	読者のたより	122
		編集後記	130
		題字・イラスト	伊藤三喜庵

巻頭言

善光寺住職 黒田博志

師父がくれた道しるべ、

『いつでも精一杯やり尽くせ。すべては生涯一度の機会だ』と叱咤する。

その師父が突然遷化され早や十年。いつなるとき誰が身に及ぶかわからない不測の事態に、私は受け入れる用意と準備のないまま、それでも頭上に成寿山善光寺を戴き、

住職として唯々無我夢中に走って来た思いが致します。

今日在るは全て支えて下さった皆さまのお陰です。ありがとうございます。

父在すときは其の志を觀、父亡きあとは其の行いを觀る。

三年父の道改まる無きは孝と謂うべし

この一語に啓発され救われ、「孝」にこだわり善光寺住職を預って参りました。

この十年、私は師父の喪中と心得、依然として亡き父の歩いた道に従い諸事執り行
って来たつもりです。しかし師父が生涯にわたり私利私欲なく、只管に仏法のために
歩まれてきた道は限りなく遙かにして、築きあげてこられた善光寺の理念は限りなく
大きく、ほとんど自分の無力さ至らなさを感しながらの毎日。助けられ、支えられな
がらの十年間でありました。

時は流れ社会情勢も変わり、善光寺を取り巻く環境も著しく変化しております。

この変化にどう対応していくべきか。悩みますが、師父が常に時代を読み、一歩も二歩も先を行く寺作りを目指して築き上げてこられたことを胸に刻み、私に出来る事は微力でも丁寧にとツツと積み上げてこれからも時代に即した、皆さまに喜ばれるような寺づくりを目指してまいります。

そしてその中心には『孝』を大事にした善光寺の在り方。師父の背中を追いかけ『真似僧』として歩いてきた十年。最近、『先代さまによく似てきましたね』と声をかけられます。嬉しい半面、性格や行動力までは真似出来ない自分が在ります。

生前師父は、

『博志、俺の真似はするなよ。俺は乞食からやってきたんだ。バカにされ、ホラ吹きといわれながらも歯をくいしばってやってきたんだ。お前が俺の真似をしたら必ず失敗する。だから真面目にやってゆけ。地に足をつけてやっていけば必ず寺を護って

いける。大丈夫だ。』

ことあるごといわれました。私はとうてい師父の真似は出来ません。当然、あの存在感には到りません。でも外見や性格を真似するのではなく、私はその理念を真似していく。もしかしたら師父のやり方とは正反対をするかも知れませんが、私は、師父の理念がそこにあると信じ寺を護っていくのみ。

無私の心、私利私欲なく歩まれた師父の生き方をこれからも真似して善光寺を護って参る所存です。

住職になり十年を迎える区切りに改めて原点回帰、脚下照顧。

さらに十年、師父大圓武志大和尚を敬い慎み、道に従い精進して参ります。

みなさま方の益々のご教導何卒よろしくお願い申し上げます。